



佐藤 仁志 議員
新しい風やとみ

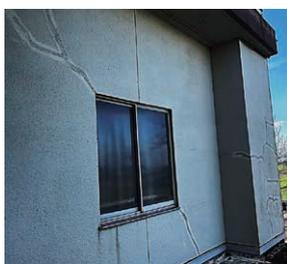
問 なぜ中学校跡地ではダメなのか

答 計画に変更がないため



▲十四山西部小のベランダ軒裏

○統合小学校の建設地が、十四山中学校跡地ではなぜだめなのか、以下を問う。
問 十四山西部小学校は、壁にひびが入り、柱にも無数のクラックが入っている。高度成長期に建てられた躯体のリスクを甘く見ていないか。躯体の安全性をどう証明し、保証するのか。
答 (教育部長) 専門家による耐力度調査を実施し、既存校舎の躯体の強度を確認しており安全である。



▲十四山西部小校舎の壁

問 去年の説明会から中学校跡地が良いという市民の意見はあったが、専門家が中学校跡地案を示して、署名活動が起きた。市民が表明した意思を市はどう受け止めるか。
答 (教育部長) 署名という形で重く受け止めている。

問 17万円の紛失事案、補助金交付事務の手続きミスで730万円を一般財源から補填するなど、一連の度重なる不適正事務に対する管理者責任は。
答 (副市長) 市政における事務の信頼性を損ねたことに深くお詫びする。これまでに以上に職員一丸となり、市民の信頼を取り戻すため、全力で市政運営に取り組む。
問 これは組織的な問題である。行政事務の責任者である副市長の対応能力に疑問があるか。
答 叱責を受けたことを全て糧にして、信頼回復に努め行政運営と、市民サービスの向上を目指す。

問 不適正事務処理の管理者責任は
答 信頼回復に全力で取り組む

問 市の説明は信用できない。民間企業であれば辞任に値する。その覚悟はあるのか。
答 職員一丸となり、適正な事務執行と、信頼回復に努める。